

研究班番号【 54 】
推し活と性格の関連性

社会班: 檀野 千紘、岡崎 妃香莉、南野 友俐、松田 夏乃

Abstract

The purpose of this study is to reveal what kind of relevance between "Oshikatsu" and people who do "Oshikatsu" there is and to suggest the right way of doing it. Therefore we conducted a survey about personality and Oshikatsu for students in Kozu high school. The experiment shows that a person who is more sensitive to danger and is less adventurous tends to be more dependent on his or her favorite person. Thus, this study concludes that if people of any personality can visualize danger, they will be able to detect it and will be less likely to spend too much money on their favorite people, in other words, they will be less dependent on them.

要約

本研究の目的は、推し活と推し活をする本人の性格にどのような関連性があるのかを明らかにし、正しい推し活を提示することである。そこで、ビッグファイブ性格調査を用いた性格に関する質問と、推し活に関する質問を高津高校の1、2年生に実施した。調査によって、危険を感じやすく、冒険しない性格の人ほど自身の推しに依存しにくい傾向があるということがわかった。従って本研究では、どのような性格の人であっても危険を可視化すれば、それを察知でき、お金を使いすぎない、つまり、推しに依存しにくくなるということが結論付けられた。

1. はじめに

現在、推し活という言葉が世の中で浸透し、メディアなどでよく取り上げられる。推し活というのは自分にとってイチオシの人やキャラクター、いわゆる「推し」を様々な形で応援する活動のことである。推し活が班員全員にとって身近で興味深いテーマであるという理由から私たちは推し活を研究テーマに選んだ。推し活は社会に多大な影響を与える反面で、過度にお金を費やしてしまうことなどという問題点もある。そこで、これらの問題点は本人の性格と関係があるのではないかと考え、正しい推し活を提示するために調べることにした。

2. 研究手法

推し活と性格に関連性があるかどうかを明らかにするため、推し活に関する質問とビッグファイブ性格調査を用いた性格に関する質問を含めたアンケートを高津高校の1年生(248名)2年生(286名)に実施した。ビッグファイブ性格調査とは外向性、協調性、誠実性、情緒安定性、開放性の5つの因子で性格を測定する診断である。ビッグファイブ理論は因子分析という統計手法を用いて導き出されたため、多くの研究において妥当性や信頼性が確認されており、性格心理学の分野では最も科学的根拠のある理論とされている。

《実験》

- ①推し活に関する質問をした。
- ②ビッグファイブ性格調査を用いて性格に関する15個の質問をした。
- ③アンケート結果を集計・分析し、推し活と性格に関連性があるかどうかを考察した。

3. 結果

今回の研究に用いたアンケート内容において、「推し活に費やすお金の量」という項目が最も性格と推し活の関連性が見られた。高津高校の2年生では協調性が高く情緒安定性が低い人、1年生では誠実性が高く情緒安定性が低い人が推し活にお金を費やすことが少ないということがわかった。このことから、情緒安定性が低い性格の人ほど推しにお金を使わない傾向があることが明らかになった。しかし、推し活に多くのお金を費やしている人の性格には特徴があまり見られなかった。

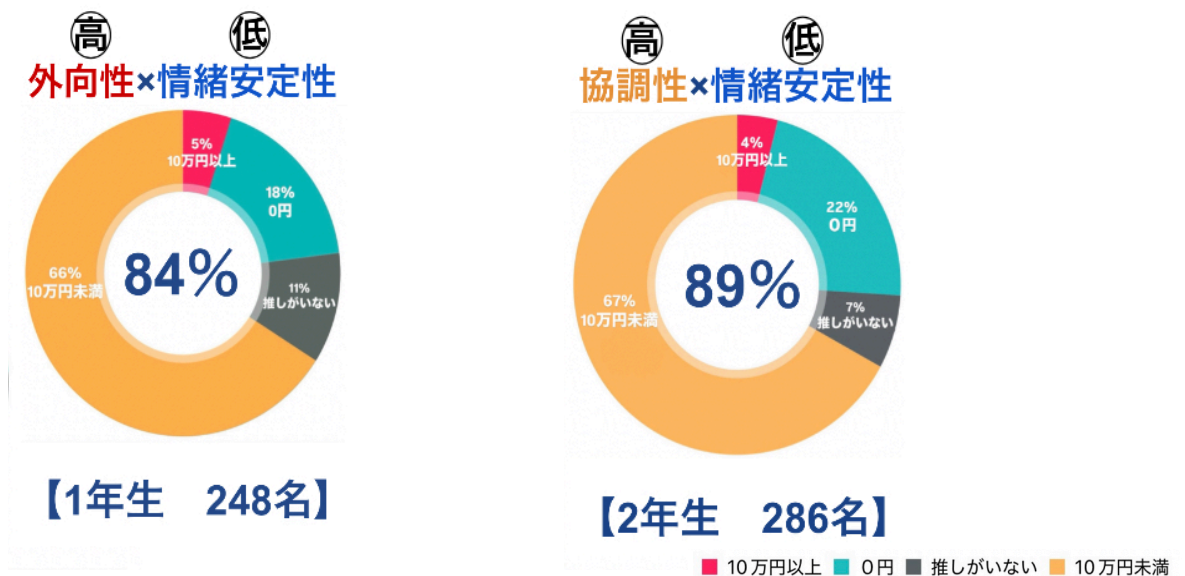


図1 推し活に費やす金額

4. 考察

1年生、2年生両方の共通点として、情緒安定性が低い人ほど自身の推しに依存しにくい傾向にあった。情緒安定性が低い人の特徴として、“危険を感じやすく、冒険しない”ということが挙げられる。このことから情緒安定性が低い人は、お金を使いすぎたがゆえに自分に及ぶ危険を察知して、お金を使いすぎる前に自制することができるため、自身の推しにお金を使いすぎない、つまり、推しに依存しにくい傾向にあると考える。また、お金をあまり使わない人は性格に偏りがあつたが、お金を多く使っている人は性格に偏りがなかった。これは、今回の調査対象を高津高校1、2年生に限定したためと考えられる。高校生は、社会人に比べて収入が安定しておらず、収入源に違いがあるため結果にばらつきが出たと考える。

5. 結論

考察をふまえると、情緒安定性が低い人はお金を使いすぎず、情緒安定性が低い人は危険を察知するためだとわかる。したがって、私達が考えた正しい推し活の方法は、紙やスマートフォンのメモに日付、買ったもの、使った金額などを書くということだ。危険を視覚化することによって、別の因子を持つ人も危険を察知できるため、推しに依存しすぎるといった問題が軽減されるのではないだろうか。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- 倫理資料集 テオーリア. 第一学習社. 2023-01-10.
- Ritori. “ビッグファイブとは？5つの性格特性と心理テストを紹介”. ACHIEVEMENT HR SOLUTIONS . <https://achievement-hrs.co.jp/ritori/big-5/> (参照2024-10-02)
- ミライ科. “推し活とは？推し活のメリットデメリットってなに?”. Benesse. 2024-02-25. <https://cblog.benesse.ne.jp/miraika/2023/01/oshikatasu.html> (参照2024-10-02)
- 大野萌子. “「推し活」が生活に幸福をもたらす4つのメリット”. 東洋経済オンライン. 2022-12-12. <https://toyokeizai.net/articles/-/637639?display=b> (参照2024-10-02)
- 堀潤モーニングFLAG. “「推し休暇」がやる気向上の糸口に？従業員のやる気を上げる施策を徹底議論”. TOKYO MX+. 2022-12-03. <https://s.mxtv.jp/tokyomxplus/mx/article/202212130650/detail/> (参照2024-10-16)

